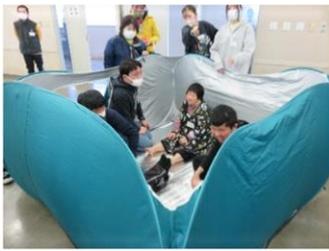


さわやかちば県民プラザ主催事業等実施報告

実施日	令和 7年 2月 9日(日)		
事業名	さわやか青年教室		
趣 旨	知的障害のある青年を対象とし、充実した勤労生活を送るための技能を習得したり、社会生活の質の向上を目指したりする学習支援活動、スポーツ・レクリエーション等の余暇支援活動など、学びの機会となる場を提供することにより、よりよい社会生活・家庭生活を送るために必要とされるルールや技能を身につけ、充実した社会生活を営むことを目指す。		
会 場	当所大研修室		
対 象	18歳以上50歳未満の知的障害のある方		
申込方法	Web又は葉書、来所		
募集定員	40名程度	募集期間	令和 6年 4月 17日から令和 6年 5月19日
参加者数	30名	参加費用	無料
講師 等	障害児相談支援事業 レールK 代表 市岡 武 氏 柏市生涯学習課職員		
実施内容	<p>参加人数:受講生30名(12名欠席)、講師2名、学生ボランティア7名が参加。 活動内容:第6回「学習教室(防災)」 日 程:10:00~12:00</p> <p>①始めの会(オリエンテーション、自己紹介) ②学習教室(動画視聴、防災グッズ紹介及び体験) ③終わりの会(次回の連絡、アンケート記入)</p> <p>活動後、ボランティア、職員で反省会</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>災害についての動画視聴</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>避難グッズの紹介</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>簡易パーテーション体験</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>簡易ベッド体験</p> </div> </div>		

<p>参加者 アンケート</p>	<p>【満足度100%】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防災について勉強できて楽しかった。 ○震災の話を聞いて勉強になった。 ○避難場所に持って行く物を覚えられてとても良かった。 ○避難の時、自分の力で行動できるようにすることが大切だと知った。 ○家族と相談して行動計画を作っていきたい。 ○キャンプ場のテントみたいで、寝てみて気持ち良かった。 ○プリント(避難計画)があるなんて知らなかった。 ○なるほどと思った。 ○震災は怖いと思った。 ○動画は少し難しかった。 ○パーテーションやベッドの体験は楽しかった。
<p>担当者の 所感</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の趣旨については、防災学習教室にて災害時の行動や備えについて学ぶ場を提供したことにより、「社会生活・家庭生活を送るために必要とされるルールや技能を身につけ、充実した社会生活を営むことを目指す」が実現できたと考えられる。 ・講座内容については、前半が震災についての動画視聴、後半が防災グッズ体験という座学と体験を組み合わせた構成は、受講生の理解を深めるものとなった。 ・受講生のアンケートについては、満足度が100%と高い結果が得られた。 ・支援体制については、学生ボランティアを各グループに割り当て、支援計画をしたことで、怪我や事故無く、円滑に講座を進めることができた。 ・支援内容については、職員やボランティアが受講生の様子を観察し、適切に声掛けをしたり、トイレや活動場所の移動補助を行ったりしたことで、受講生は落ち着いて行動することができていた。 <hr/> <p>【課題・今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容については、防災教室は数年前にも行ったことがあるが、新しい情報も取り入れながら繰り返し学ぶことで知識が定着するため、有効だと考える。 ・会場については、大研修室の前半部分にて座学、後半部分の机を畳み体験スペースとしたが、適切であった。 ・学生ボランティアについては、今回は各グループに1, 2名を割り当て、円滑に展開できたが、活動内容によっては各グループに2名の割り当てができる方が良い。大学へ依頼し、学生ボランティアを増やしたい。 ・配慮を要する受講生については、サポート体制を整え、また、講師やボランティアとコミュニケーションを図ることで、引き続き円滑な講座運営を行いたい。